




はにゅうしりつとしょかん


【おすすめ】

「おこだでませんように」
 くすのき しげのり // 作 石井 聖岳 // 絵 小学館 Eオ




ぼくはいつも、家でも学校でもおこられる。どないしたらおこられへのやろ。どないしたらほめてもらえるのやろ。ぼくは「悪い子」なんやろか…。

「おたんじょうびのひ」
 中川 ひろたか // 文 長谷川 義史 // 絵 湖北社 Eオ




明日はよしふみくんの誕生日。どんな赤ちゃんだったかお母さんに聞いてみます。初めて歩いた時のこと、新しい言葉を喋った時のこと…。

「たねがとぶ」
 甲斐 信枝 // 作 森田 竜義 // 監修 福音館書店 Eタ




道端に咲いた春の草が、花のあとに実をつけた。実の中には、種がある。種は、草の子ども。やがて、草の子どもは旅にでる。新しい場所に仲間を増やすために…。

「ないた」
 中川 ひろたか // 作 長 新太 // 絵 金の星社 Eナ




ぼくは、どうして泣くんだらう？大人は、どうして泣かないんだらう？痛いとき、悲しいとき、感動したとき、嬉しいとき、いつもぼくは泣いている。泣くってふしぎ。

「ばすくん」
 みゆきりか // 作 なかや みわ // 絵 小学館 Eバ



ばすくんは路線バス。もう長いこと働いてきたのでくたびれています。それでも一生懸命働いているのです。ところがある日、新型バスが導入されて…。くじけるな、ばすくん！


「いのちのおはなし」
 日野原 重明 // 文 村上 康成 // 絵 講談社 Eイ



いのちは、どこにあると思いますか？友達同士で心臓の音を聞いて、生きている証を確かめたら、今度はいのちについて考えてみよう。

【おすすめ】

「教室はまちがうところだ」
 蒔田 晋治 // 作 長谷川 知子 // 絵 子どもの未来社 Eキ




教室はまちがうところだ。みんなどしどし手をあげてまちがった意見を言おうじゃないか。まちがった答えを言おうじゃないか。

「時計つくりのジョニー」
 エドワード アーディゾーニ // 作 こぐま社 Eト




ジョニーは手先が器用でものを作るのが大好き。ある日、本物の大時計をつくらうと心に決めて…。

「走れメロス」
 太宰 治 // 文 竹内 通雅 // 絵 齋藤 孝 // 編 ほるぷ出版 Eハ




メロスは、暴君の人質となった友のため、困難を乗り越え、走り続ける…。太宰治の文体はそのままに、メロスが力強く走る場面を中心にした大迫力の絵本。

「くまって、いいにいい」
 ゆもと かずみ // 文 ぼりかわ りまこ // 絵 徳間書店 K913/Eモ




森の奥に住んでいるいいにいいのくまは、動物たちの悩みを聞いてあげていました。「ぼくだって時々元気が無いのに…。」疲れたくまのところに発明家のきつねがやってきて…。

「はるかな国の兄弟」
 アストリッド リンドグレン // 作 岩波書店 K949/WJ




やさしくて強い兄ヨナタンと、弟のカール。はるかな国ナンギヤラにやってきたふたりは、怪物カトラをあやつり村人を苦しめている黒の騎士テンゲルに立ち向かう。

「電池が切れるまで」
 宮本 雅史 // 作 石井 勉 // 本文・絵 角川学芸出版 K378/B




「だから私は命が疲れたと言うまで せいっぱい生きよう。」つらい病氣とたたかいながら、笑顔で生きることもたちと家族のほんとの物語。

「ちびっこカムのぼうけん」
 神沢 利子 // 作 山田 三郎 // 絵 理論社 K913/カ



火を吐く山の頂上には大男の鬼がいて、夜な夜なクジラをつまみ上げて火にあぶって食べているという。母の病氣を治すために、カムはその山へ行くことに…。

「君たちはどう生きるか」
 吉野 源三郎 // 著 マガジンハウス K159/ヨ



自分の生き方を決定できるのは、自分だけだ。「人間としての一生を、どういうふうに生きていったらいいか」を考えてみよう。